

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立結出小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを誇りに思い主体的に行動する結出っ子の育成					
基本方針	未来を生きる子どもたちの成長を支える地域社会総がかりでの教育の推進					
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進(進んで学ぶ) 2 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進(体をきたえる) 3 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成(人のためになる)					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A	B
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B
④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A B	A	
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 話す際の型を身に付けさせ、そこから変化させていく工夫などをする中で、対話することに少しずつ慣れてきた。 教師自身の読書経験を基にしながら読書活動の啓発に努めたことで、児童の読書への意欲が高まった。 地域の方が計画的・継続的に教育活動に関わることのできる仕組みが不足している。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校の優れた実践事例を参考にしながら、総合的な学習の時間の計画を立てる。 自校の教育活動について、より具体的に地域の方と対話し、連携・協働することのできる部分を洗い出す。 学校運営協議会における熟議を有効に活用し、地域の方の情報や考えを積極的に取り入れる。 						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A A	A	
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート ・教師アンケート ・児童アンケート	B B B B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談の時間だけでなく、日頃から一人一人の心身の状態を細かく観察し支援することで、児童が安心して学校生活を送ることができた。 ゲームのし過ぎや睡眠時間の不足など、家庭での過ごし方に課題がある。 自己肯定感、自己有用感については、十分に高まっているとはいえない。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭での過ごし方が安定するように、学級通信、保健だより等で啓発したり保護者と直接対話したりして、その重要性を理解してもらう。 児童が誰かの役に立った場面を具体的に取り上げ、様々な場面で褒め、励ましていく。 地域の方や保護者、教職員から大切にされていることが児童にしっかりと伝わる教育活動を展開する。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、 教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。 ・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、 温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間に、会話や相談のしやすい雰囲気がある。 ・課外体育における休業日の設定を適切に行うことで、教職員があまり無理をせずに勤務することができた。 ・数多くの校務分掌を担当している教職員が、業務をスムーズに行うことのできる時間を十分に確保できなかった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前5時間制を導入し、教職員が事務的な仕事をするところの時間を確保する。 ・校長が自ら教職員の状況をより具体的に理解できるように、職員と1対1で話を聞くことのできる時間を確保する。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	②	情報発信 家庭や地域に対して、 教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、 相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新をほぼ毎日行うことで、学校の情報を保護者や地域の方々に伝えることができた。 ・学校運営協議会において熟議を積極的に行うことで、地域の方の意見が具体的に理解できるようになった。 ・学校運営協議会の熟議において、実行できることを見付ける段階にまでは至らなかった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容をより具体的にし、分かりやすく明るい情報発信ができるようにする。 ・学校行事に関する情報をより多くの方々に広げ、教育活動に一人でも多くの方々に関わってもらえる状況を作る。 ・保護者や地域の方に積極的に手紙を書いたり対面対話したりして、同じ気持ちで学校教育を進められるようにする。 ・宇和島市教育推進員と連携して、学校運営協議会の熟議をより効果的に進めていく。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満